

令和元年度 磐田市立磐田中部小学校 学校評価書

評価(設問): 学校評価項目

自己評価: 「強く思う」「だいたい思う」の回答について、児童・保護者・教師の平均値で評価

A 90%以上 B 89~80% C 79~65% D 65%未満

	重点項目		評価指標(設問)	自己評価	考察・改善
学力向上	☆自ら学ぼうとする子の育成 ~みんなで「わかる」できる」 楽しい授業~ ・学習の手引きの発行 ・日々の学習が生かされる場の設定 ・調べ方を学ぶ活動の充実 ・知りたい、調べたいと思わせる 授業のアプローチ ・図書資料、人材の活用	学習理解	基礎学力(学んだことが身につけている)	B	1 学力の定着について 保護者、児童の評価は80%、教師は90%を超えている。また、全国学力・学習状況調査の結果も、全国、県、市の平均を上回っている。このことから、本校の児童の基礎学力は、概ね定着していることが分かる。今後も、授業改善を図るとともに、家庭と連携しながら学習指導にあたっていきたい。 2 授業内容の理解について 児童、教師の90%以上が、学習内容を理解できていると感じている。みんなで「わかる」楽しい授業を研修テーマに授業のユニバーサルデザインの考え方を取り入れている成果であると思う。今後も外部講師を招きながら、授業研究を深め、教科指導の質を高めていきたい。 3 読書について 読書に進んで取り組んでいると感じている児童の割合が、昨年度より下がっている。次年度は、朝読書の時間を倍増し、まずは、読書に親しむ時間を確実に確保していく。 4 進んで調べたり、聞いたりする学習意欲について 保護者、教員の数値は、昨年度より大幅に向上したが、あと一歩B評価には到達しなかった。次年度は、学び合う喜びを実感させる手立てを講じ、学習意欲の向上につなげていきたい。
			学習内容理解度(授業の内容が分かります)	B	
			家庭学習の習慣(学年×10分+10分ができています)	B	
			進んで調べる・聞く(進んで先生に聞いたり、自分で調べたりしています)	C	
			聴くこと(先生や友達の話を目と耳と心で聴いています)	B	
読書(よく読書をしています)	C				
学習支援	きめ細やかな支援(分かりやすく教えてくれます)	B			
学校生活	☆自分の居場所のある 温かい学校づくり ・集団としての力を高める ・教師と子供の信頼関係づくり ・子供と子供の信頼関係づくり	学校生活	学校生活楽しさ(楽しく学校に通っています)	A	1 学校生活 楽しさについて 三者ともに90%を超えている。今後も、児童にとって学校が居心地のよい場所になるよう努めていきたい。 2 学校ルールの遵守について 保護者の評価は90%を超え、昨年度より大きく向上した。次年度は、学級力アップ大作戦を各学級で実施し、クラスで協力しようとする意識を高めていきたい。 3 子供理解につて 児童と保護者の平均は90%を超えた。児童や保護者の信頼を得て、教育活動を進めることができた。 4 異学年交流について 各教科や特別活動などを通して、学年間の交流学習を進めてきた。今後は、プロジェクト活動(児童による自主的な異学年活動)を推進し、さらなる異学年交流を図っていきたい。
			学級のルールの遵守(わたしたちの学級(学校)には、互いにルールを守り、協力する雰囲気があります)	B	
			異学年交流(たてわり活動に楽しく取り組んでいます。)	B	
			声の力(朝の会や集会、会礼などで、自分から声を出し、楽しんで歌っています)	B	
児童理解	子供理解(教師は、子供のことを理解してあっている)	A			
生活習慣	☆規範意識の向上 ・学校の約束やルールを守る子 ・友達は「さん」をつけて呼ぶ ・挨拶や返事ができる	人間関係作り	気持ちのよいあいさつ(進んで気持ちのよいあいさつをしています)	C	1 気持ちのよい挨拶について 保護者の評価は7割、教師は5割未満と、児童に比べて評価が低い。特に地域での挨拶ができていないと感じている保護者、教師が多い。学校内での朝や帰りの挨拶や会釈を継続指導し、児童の挨拶に対する意識を向上させたい。 2 適切な相談について 三者の平均は、90%を超えた。校内では、児童理解の会や校内研修を活用し児童理解に努めている。保護者とも連絡をとりながら、教育相談を適宜実施していきたい。 3 基本的な生活習慣 三者とも80%を超え、昨年度より大幅に評価が向上した。挨拶や廊下歩行など、規範意識がさらに向上するように「中部っ子のやくそく」を明示するとともに、教員が同一歩調で児童の指導にあたっていきたい。
			温かな言葉遣い(相手の気持ちを考えた、あたたかな言葉づかいをしています)	C	
			適切な相談(学校に相談できる人(先生や友達)がいます)	A	
			基本的な生活習慣(靴を整とんしたり、時刻を守ったりして生活しています)	B	
生活習慣	規則正しい生活(早寝、早起き、朝ごはんができています)	B			
開かれた学校	・地域、家庭との連携 ・子供の姿や教育内容を積極的に伝える	連携	保護者、地域からの協力(保護者、地域の協力を得て教育活動を進めている)	A	保護者や地域の協力を得ながら教育活動を推進できた。今後も、総合的な学習や行事を軸に、地域に開かれた学校を目指していきたい。 小中一貫教育は、今年度、教科を中心に研修を進めた。学府での取り組みを学校だよりやホームページを通して、情報発信をさらに行っていきたい。
			小中一貫(他校の先生や友達との良さを感じています)	C	
学校関係者評価委員から	○登下校について 挨拶してくれる子が多く、すばらしい。一方で、高学年の挨拶はできない傾向にあるように感じる。中学生、高校生は、しっかり挨拶ができる。 ○参観会の様子について 保護者が教室に入って、しっかり授業を参観していた。中にはメモを取っている方もいた。1/2成人式では、親への感謝の言葉を述べていた。改めて感謝を言う場は、普段なかなかないので、大切にしてほしい。 ○プロジェクト活動(自主的な異学年交流)について 創造、共同する力を育むプロジェクト活動は非常に良い活動である。社会に出て必要な力。 ○地域との連携、地域の歴史や自然に対する興味・関心について 磐田市には、すばらしい歴史と自然がある。調べたことをまとめたり、情報発信したりできるといい。地域とも連携していきたいし、地域の人と交流する機会も増えるといい。 ○外国語、外国語活動について 英語にふれると楽しいという学習が行われていてよい。しかし、大切なのは、言葉の向こうにある文化や価値を理解すること。地球人として、人とつながることができる子を育てたい。			学校関係者評価委員から	○校内のみならず、校外でも地域の方に挨拶ができるよう指導を継続していく。また、PTAと協力して、朝の登校指導や見守りも充実していく。 ○今年度もPTA役員と連携し、参観会での私語を慎むことの呼び掛けや掲示物による啓発を行った。また、今年度は、保護者来校の際の近隣施設への違法駐車を防止する手立てもとった。引き続き、保護者への啓発活動に取り組んでいきたい。 ○プロジェクト活動は、本校の校訓である「自主協同」を体現する活動の1つである。今後も、子供たちの主体性と共同性を高める手立てをとっていきたい。 ○総合的な学習の時間や社会科、生活科を軸に、地域の自然や歴史に触れる機会を有効に活用していきたい。教科横断的な視点で、各学年のカリキュラムを組んでいく。また、地域のボランティアや講師の方を招いた学習も行っていきたい。 ○外国語活動と外国語の授業は、専科教員を中心に授業に取り組んでいく。子供たちが楽しみながら学べる環境を整えていくとともに、実践で英語を活用できるような体験もさせていきたい。また、言語だけでなく、文化や価値観についてもふれる内容を取り入れていきたい。評価方法については、職員で研修を深め、適切な評価を行える体制を整えていく。